跡見学園女子大学マネジメント学部紀要　第19号　（2015年1月25日）

オーバーアマーガウと観光

Oberammergau und Tourismus

山　田　徹　雄
Tetsuo YAMADA

要　旨

オーバーアマーガウは、リンダーホフ城、ノイシュヴァンシュタイン城、ヴィーズ教会、エッタール修道院を周回する観光ルートに位置している。同地の観光資源はフレスコ壁画、木彫り製品および10年ごとに上演されるキリスト受難劇に代表される。エッタール修道院聖職者の関与によって伝統が形成されたキリスト受難劇は、内外観光客の注目を浴びてきた。受難劇の上演年には、国外からの観光客が激増する一方、国内からの訪問者はかえった減少を示している。また、上演年には、訪問者の滞在期間が短縮する。このことから、平年に同地を長期滞在するリピーターが、受難劇上演年の雑踏を回避していると考えられる。

キーワード：オーバーアマーガウ、フレスコ壁画、キリスト受難劇、エッタール修道院

はじめに

バイエルン州オーバーバイエルン県ガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡オーバーアマーガウ村は、マルクト・ガルミッシュ＝パルテンキルヘンの北、およそ20kmにある人口5,156人（2011年6月30日現在）の小規模自治体である。[i]

先史時代のアマーガウについては、未知の部分が多いが、9世紀末に初めて確認できるアマーガウという地名は、ケルト語で水を意味するアンマー川（Flussname Ammer）に由来する。1330年にバイエルン皇帝ルードヴィヒ（Kaiser Ludwig der Bayern）がエッタールに修道院を設立したときには、アマーガウが周知の地名となっていた。[ii]

オーバーアマーガウは、10年周期で行われる受難劇によって特徴づけられているにせよ、

この村をその面だけから見るのは妥当ではない。「主なる神の木彫家の村」(Dorf der Herrgottschnitzer)[iii] という表現が示すように、かつては住民の大部分が木彫りによって生計を維持していたし、現在においても観光客向けの木彫り製品は、村経済の支えとなっている。[iv]

リンダーホフ、ノイシュヴァンシュタイン、ヴィーズ教会、エッタール修道院などの観光名所に近接していることから、オーバーアマーガウに立ち寄る観光客も少なくない。[v]

同村の自然景観が観光客を呼び寄せていることは、多数の自然保護区域（Naturschutzgebiet）に囲まれていることと関わりがある。すなわち、周辺にはNSG“Ammergebirge、エッタールとオーバーアマーガウの間にはNSG“Ettaler Weidmoos”、北西にはNSG“Pulvermoos”がある。[vi] さらに、オーバーアマーガウは、ガルミッシュ＝パルテンキルヘン、ミッテンヴァルトと並んでフレスコ壁画の美しさでも有名である。[vii]

本稿では、オーバーアマーガウの観光資源であるフレスコ壁画と受難劇の形成・定着過程を分析し、受難劇の上演による観光客への影響を解明する。

１．オーバーバイエルンのフレスコ壁画

「フレスコ壁画」(Lüftlemalerei)[viii] は、とくに南ドイツに見られる。その境界は、およそマイン川といえよう。フランケンにそれほど多数存在しないのは、同地の木骨組み建築（Fachwerkbau）、いわゆるハーフティンバーには広い面が無いためである。北ドイツ、東西プロイセンにもフレスコ壁画は存在しなかった。オーストリア・ベーメンには、白黒のスグラフィート（Sgrafiti）がしばしば見られる。[ix]

美術史家、ルドルフ・ヘルトゥル（Rudorf Härtl）によると『美術史において、オーバーバイエルンの壁画の起源は簡単に立証できる。』として、ルネサンス、バロック時代のイタリアのフレスコ画にその起源を見出している。[x]

南ドイツがルネサンス時代に影響を受けた経路は３つあった。一つは、スイスを経由してライン･ボーデン湖地域およびライン川に沿ってアルザス、さらにフランクフルト、ケルン、ブリュッセルに至る経路。第２の経路はブレンナー峠を超えてティロルに至り、さらにアルトバイエルン、特にオーバーバイエルンに至るもの。第３はザルツブルクを経てベーメンへ、さらにドレスデンやシュレージエンに至る道である。このような背景から、第２の経路を経て、オーバーアマーガウ、ガルミッシュ、ミッテンヴァルトに壁画が生まれ、継承されてきた。[xi]

マイダーによる以下の指摘を想起すべきであろう。

「イザール川、パルトナッハ川、 ロイザッハ川、 アンマー川沿いにあるバロック様式、ロココ様式の教会の美しい教会を訪れ、その内部にあるフレスコ画に目を奪われるものは、多くの家

屋の外壁に描かれた絵画、すなわちフレスコ壁画を見過ごすべきではない。」[xii]

２．キリスト受難劇

２－１．オーバーアマーガウと受難劇

オーバーアマーガウと受難劇の関係を雄弁に語っているのは、1900年の受難劇を見て感動したジョセフィーヌ・ヘレナ・ショート（Josephine Helena Short）による記述である。以下、これを援用して、オーバーアマーガウと受難劇の関係を概観する。

オーバーアマーガウに勝る村は存在しない。その地に住んでいる人々はひとつの理想によって結ばれている。すなわち、およそ300年前に彼らの祖先によってちかわれた誓約を実現することである。彼らはこの目的のために生まれてきたと感じており、それに対して生涯をささげるのだ。彼らは自らの受難劇を上演する。[xiii]

この地の若者の多くは、村の学校を卒業後、ミュンヘン、時にはシュトュットガルトなどの都市に進学するが、常にオーバーアマーガウに戻ってきて暮らしている。世間との接触によって多少の変化を受けつつも、村とその伝統に対する忠誠心を失うことなく。[xiv]

（最近まで受難劇の基本的なテクストとして継承されてきた脚本を記し、舞台監督を務めた）ダイゼンベルガー神父（Joseph Alois Daisenberger）は、1883年に逝去したが、人を奮い立たせる影響力は依然として村では感じられる。彼はアンマー渓谷から6マイルのところにあるオーバーアウで生まれ、エッタールにおいて博学な司祭（priest）、オットマー・ヴァイス（Ottmar Weiss）のもとで教育を受けたので、疑いもなく十分にオーバーアマーガウと受難劇に精通していた。

1845年、村民が一致して彼を司祭に推挙したとき、これを受け入れた。ダイゼンベルガーは、博識で高邁な理想を持ち、30年間、村人の心の導き手であった。ダイゼンベルガー神父は、受難劇の監督を務め、多数の神聖かつ歴史的な劇を書いた。[xv]

6か月以上のあいだ、村人は通常の仕事を放棄することを余儀なくされる。取引関係は中断し、時には全く破棄される。夏期の経済的な報酬は、失った分を埋め合わせすることはないことがしばしばある。役者としての給料は安く、1900年には夏期を通してせいぜい1,500マルク、米ドルでおよそ375ドルであった。チケットの販売代金は、公共目的に投じられ、村は10年ごとに改善された。むろん劇の上演準備で発生した負債の支払にもチケット販売の売り上げが使われている。[xvi]

ショートの記述のもととなった受難劇は1900年の上演であった。近年では、日本人による観劇記録が公表されている。

井手雄太郎は1984年「350年祭」において受難劇を観劇したが、その後、2000年にも受難劇を観劇し、その概要を旅行記として語った。[xvii]

同じく、2000年の受難劇を鑑賞し、かつその脚本（Gemeinde Oberammergau, *Passionspiele Oberammergau 2000*）をもとに劇中の女性の役割を学問的に記したのは古庄　信である。[xviii]

同地で伝統的に演じられてきた受難劇の評価は、概して高いが、以下のようなネガティヴな評価もある。

「オーバーアマーガウは、また、イエスを殺害する陰謀を企てた残虐で裏切り者の悪役としてユダヤ人を長期にわたり描いてきた劇――それはヒットラーによって賞賛され、ユダヤ人の団体から厳しい批判を浴びたが――で悪名高い。」[xix]

２－２．キリスト受難劇の歴史

30年戦争後、オーバーアマーガウではペストが大流行し、1633年には二軒に一軒の家庭にペストによる死者が発生する事態となった。

オーバーアマーガウの住民たちは、1634年の聖霊降臨祭に際して、ペストによる死者を弔って墓地に設置した舞台で、最初の「キリストの受難、死、復活の劇」（Spiel vom Leiden, Sterben und Auferstehen unseres Herrn Jesus Christus）を上演した。

30年戦争後、受難劇が上演されていたのは、オーバーアマーガウに限らない。

1600～1650年の間に、バイエルン＝オーストリア地域において、およそ40の受難劇が上演されていたことが確認されている。[xx]

オーバーアマーガウ同様に現在に至るまで、受難劇の伝統を維持しているのは、オーストリア、ティロル州クフシュタイン郡エアル村（Erl）である。同村の人口は1,452人（2014年1月1日現在）であり、受難劇の歴史は1613年まで遡ることができる。この年にキリストの生涯と死の劇が上演されていたことが、検証されている。[xxi] 近年では、2002年の5月から10月の間に40回上演され、55,000人が訪れ、[xxii] 2013年には、受難劇400周年記念上演が行われた。[xxiii]

ところで、オーバーアマーガウにおいて現在のように、10年周期で受難劇が上演されることが一般化したのは、いつからであろうか。

1680年、第6回の受難劇が上演され、この時、オーバーアマーガウ自治体は、10年サイクルで受難劇を開催することを決定した。[xxiv]

それ以降、80年間は周期的な上演が実施され、第14回の受難劇が行われた1760年には、1万4千人の観衆があったことが記されている。

1770年、バイエルンにおいて受難劇の禁止令が公布され、オーバーアマーガウにおいても中止のやむなきにいたった。

1780年、エッタールのベネディクト派修道士マグヌス・クニプフェルベルガー（Ettaler Benediktiner Magnus Knipfelberger）は、受難の主題に触れない脚色を行い、「旧・新約聖書」（Das Alte und Neue Testament）と称することによって、オーバーアマーガウ限定の特権が付与され、劇が上演された。[xxv]

1800年には、特権が更新され、第17回の受難劇が上演されるも、ナポレオン戦争の影響によって、観衆は3千人へと減少した。

1810年、バイエルン宰相マクシミリアン・モンジェラ（Minister Maximilian Graf Montgelas）[xxvi]は、オーバーアマーガウに対する特権を無効とし、この年は上演されなかった。

エッタールの神父、ヴァイス博士（Ettaler Pater Dr. Othmar Weiß）によって脚本が全く新たな観点から書き直されたのち、1811年に受難劇の禁止令は撤回された。これに伴い、第19回の受難劇が上演されることとなった。

そのわずか4年後の1815年、ナポレオン戦争の終了に感謝し、特別上演が行われた。

バイエルン王ルードヴィヒ1世は、墓地に舞台を以後、設置しないという条件で受難劇を認め、1830年に開催された第22回の上演では、5千人の観衆を集めた。

この年の受難劇は、広報的な観点から、大きな意味を持っていた。ボワスレ（Boisserée）がゲーテに宛てて熱狂的な書簡を送り、それが雑誌に取り上げられたばかりでなく、多数の批評家がオーバーアマーガウの受難劇を告知したことによって、1840年の第23回上演における観衆は3万5千人まで増加したのである。

1850、1860、1870年の上演は、ダイゼンベルガーが脚本と監督を担当した。とりわけ、1860年版の脚本は、2000年に至るまで大幅な修正を加えられることなく、基本的なテクストとして継承された。

1870年には、イギリスのエドワード皇太子をはじめとして4万人の訪問者があった。さらに1880年、第27回上演は、10万人の来訪者を数えることとなった。その背景には、ムールナウ～オーバーアマーガウ間に鉄道が敷設され、トマス・クックが観光地として当地を紹介したことがあった。[xxvii]

観衆の数は、1890年には、124,000人、1900年には、174,000人、1910年に223,548人とうなぎ上りであった。第31回の上演は戦争の影響によって2年延期され、1922年に実施された。この時の訪問客は311,127人であり、そのうちおよそ10万人が外国からの訪問者であった。アメリカのヘンリー・フォードがそのなかに含まれていた。

1934年に300周年記念の特別上演がなされ、40万人の来訪者があった。アドルフ・ヒットラー自身も観劇し、時の指導者たちは「郷土の聖なる力から生まれた劇」（Spiel aus der segnenden Kraft der Scholle）と呼び、「農民の劇」（das bäuerliche Spiel）をイデオロギーとして利用しようとした。

第二次大戦を経過した1950年の受難劇は、新生ドイツ、西欧的・キリスト教的な伝統を提示

する機会とみなされ、連邦首相アデナウワー、バイエルン首相エアハルト、連合軍総司令官アイゼンハワーなどが訪問した。観衆は48万人に達した。

1960年には、ユダヤ人に対するネガティヴな表現が批評家から非難を浴びることとなり、1970年の上演に際して、部分的な修正が加えられたが、アメリカのユダヤ人団体が受難劇のボイコットを表明した。

1984年には、350周年記念公演が行われ、1990年における第39回公演には48万人の訪問者があった。[xxviii]

2000年に行われた第40回公演に際して、反ユダヤ主義的な表現を回避する大胆な脚本の修正が行われた。これは1860年以来、最も大規模なテクスト改革であった。この年、受難劇の観衆は52万人に達している。[xxvix]

3．エッタール修道院

エッタール修道院は、ベネディクト派大修道院エッタール修道院（Kloster Ettal Benediktinerabtei）を正式な名称とする。これは、オーバーアマーガウ観光との連続性において、重要であるばかりでなく、受難劇の上演において、同修道院と関わりを持つ聖職者が関与した歴史性においても、本稿において看過することはできない。

修道院の設立は、14世紀に遡る。ヴィッテルズバッハ家の出身であるルートヴィヒ4世（Ludwig IV der Bayern）は、アヴィニョン教皇ヨハネス22世を廃位し、対立教皇ニコラウス4世を擁立した。ローマからの帰路、彼は現在のエッタールの地に修道院を設立することを決意した。[xxx]

皇帝が、ピサから持ち帰ったマリア像を据えてベネディクト派修道院をオーバーアウ近郊に設立したのは、1330年と伝えられている。

修道院の設置に言及したヨハネス・フォン・ヴィクトリンク（Johannes von Viktring）は「斬新な慣習と前代未聞の特色の修道院」（monasterium nove consuetudinis et acentus inaudite）と呼んだ。[xxxi]

修道院設立の主たる動機は、アウクスブルクとヴェローナを結ぶ通商路を開発・確保するという商業政策上の理由であった。設立にあたり、男子修道院（Mönchskonvent）、女子修道院（Frauenkonvent）と並んで「騎士修道院」（Ritterkonvent）が併置された。[xxxii]

1709年に修道院長に就任したプラシドュス2世ザイツ（Abt Placidus Ⅱ. Seiz）のもとで、修道院は最盛期をむかえ、施設全体がバロック様式で増築が行われた。また、いわゆる「騎士学校」（Ritterakademie）[xxxiii]を設置し、同修道院の教育的な伝統を作りだした。修道院の周囲には関係者

の住居が建設され、今日のエッタール村（Dorf Ettal）の基が形成されている。

その後、修道院の火災と再建を経て、19 世紀初頭には修道院神父のオットマー・ヴァイスがオーバーアマーガウ受難劇脚本の改訂に尽力した。[xxxiv]

同修道院の教育の伝統は現代にも受け継がれ、付属施設としてギムナジウムと寄宿学校が併設されている。[xxxv]

修道院が経営する施設として「修道院ホテル」（Klosterhotel）、「修道院醸造所」（Klosterbrauerei）、「修道院蒸留酒製造」（Klosterdestillerie）、「ハーブ栽培」（Klosterherbarium）、「修道院小売店」（Klosterläden）、「修道院造園」（Klostergärtnerei）、「農業・林業」（Land & Forst）、「エネルギー業」（Energiewirtschaft）、「エッタール美術館」（Ettaler Museum）などがあり、[xxxvi] それらの一部は「エッタール修道院経営有限会社」（Ettaler Klosterbetriebe GmbH）のもとで経営されている。[xxxvii]

４．オーバーアマーガウ社会の解析

オーバーアマーガウの人口は、19 世紀中葉以降、長期的に増加傾向が続いていた。第二次大戦直後に5,000 人を超える水準に至ったが、1960 年代以降停滞を示した。21 世紀に入ると再び5,000 人台を維持している。（［表１－１］、［表１－２］参照）

1970 年と 2011 年の年齢構成を比較すると、若年層の減少と高齢化の進展が顕著である。

とくに 1970 年以降は、死亡が出生を上回り、2010 年からは人口の自然増は殆ど見られない。これに対して同地への転出入は活発に行われている。（［表２］、［表３］参照）

つぎに、オーバーアマーガウ有権者の投票行動の変化をみていこう。州議会選挙においては、2003 年までは CSU が圧倒的な支持を集めてきた。ところが、2008 年の選挙では、CSU の得票率は 4 割を下回った。ここで躍進したのは、「バイエルン自由選挙人」（FW）であった。（［表４］参照）

連邦議会選挙においても、CSU は過半数の得票率を維持していた。2009 年には、僅かとはいえ、CSU の得票率が過半数を下回ったが、同時に SPD の投票率にも大幅な減少がみられている。一方、FDP と GRÜNE が得票率を伸ばした。（［表５］参照）

これらの事情を考えると、2008 年～ 2009 年に当地有権者の意識に大きな変化が生じたといえる。[xxxviii]

［表１－１］人口推移（１）

年度	人口
1840	1,155
1871	1,198
1900	1,559
1925	2,281
1939	3,640
1950	5,325
1961	4,603
1970	4,661
1987	4,944

（典拠）Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik kommunal 2012: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für die Gemeinde Oberammergau 09 180 125*, p. 6

［表１－２］人口推移（２）

年度	人口
2002	5,384
2003	5,363
2004	5,328
2005	5,372
2006	5,316
2007	5,290
2008	5,254
2009	5,204
2010	5,228
2011	5,125

（典拠）Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik kommunal 2012: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für die Gemeinde Oberammergau 09 180 125*, p. 6

［表２］年齢構成

年齢層	1970 年 5 月 27 日（%）	2011 年 12 月 31 日（%）
６歳未満	9.0	4.3
６歳～１４歳	12.5	9.2
１５歳～１７歳	3.1	3.5
１８歳～２４歳	10.8	7.4
２５歳～２９歳	7.6	5.3
３０歳～３９歳	13.9	10.6
４０歳～４９歳	11.1	17.3
５０歳～６４歳	18.3	18.0
６５歳以上	13.7	24.5

（典拠）Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik kommunal 2012: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für die Gemeinde Oberammergau 09 180 125*, p. 6

［表３］人口動態

年度	出生	死亡	転入	転出	増減
1960	58	31	764	794	－ 3
1970	52	54	784	666	116
1980	40	52	855	737	106
1990	53	75	694	565	107
2000	54	77	391	330	38
2007	33	65	362	356	－ 26
2008	36	79	343	336	－ 36
2009	42	67	333	358	－ 50
2010	22	72	446	372	24
2011	29	65	305	372	－ 103

（典拠）Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik kommunal 2012: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für die Gemeinde Oberammergau 09 180 125*, p. 7

［表４］州議会選挙における投票行動（％）

投票日	CSU	SPD	FW	GRÜNE	FDP	その他
1996 年 10 月 12 日	70.4	11.9		7.8	3.0	6.9
1990 年 10 月 14 日	74.9	9.0		7.5	2.7	5.9
1994 年 9 月 25 日	64.1	15.0		8.1	2.0	10.7
1998 年 9 月 13 日	63.7	14.9	3.8	8.3	1.1	8.2
2003 年 9 月 21 日	70.7	10.9	2.0	8.7	1.6	6.2
2008 年 9 月 28 日	39.3	9.5	22.4	11.1	7.5	10.1

（典拠）Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik kommunal 2012: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für die Gemeinde Oberammergau 09 180 125*, p. 8

（注）FW: FREIE WÄHLER Bayern e.V.

［表５］連邦議会選挙における投票行動（%）

投票日	CSU	SPD	GRÜNE	FDP	DIE LINKE	その他
1990 年 12 月 2 日	64.2	13.1	6.7	6.9	0.1	9.0
1994 年 10 月 16 日	61.6	15.6	7.5	8.1	0.6	6.6
1998 年 9 月 27 日	56.6	22.1	7.2	7.0	0.6	6.5
2002 年 9 月 22 日	68.0	17.0	7.5	7.5	0.8	2.4
2005 年 9 月 18 日	57.3	15.7	9.0	11.6	2.5	3.9
2009 年 9 月 27 日	47.8	9.6	12.2	17.1	5.2	8.1

（典拠）Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik kommunal 2012: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für die Gemeinde Oberammergau 09 180 125*, p. 8

オーバーアマーガウは、森林がおよそ６割を占め、農地が３割弱という土地構成となっており、住宅用地は 5.6% に過ぎない。広大な自然環境になかに「むら」が存在する。

［表６］土地の利用形態（2011 年末）

利用形態	Ha	%
建物、空き地	167	5.6
保養地	3	0.1
交通用地	60	2.0
農地	826	27.5
森林	1,781	59.2
湖水、河川	44	1.5
その他	123	4.1
合計	3,006	100.0

（典拠）Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik kommunal 2012: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für die Gemeinde Oberammergau 09 180 125*, p. 12

オーバーアマーガウにおける観光客を考察するに際して、受難劇上演年とそれ以外の年の相違に注目したい。

受難劇が上演された 2010 年は、国内からの訪問者の減少と国外からのそれの大幅な増加によって特徴づけられる。上演年の翌年には訪問者数の反動減が特に、国外からの訪問者に著しい。平均宿泊数をみると、上演年には、滞在期間が短くなっていることが分かる。（［表７］参照）

また、小規模施設宿泊者においては、受難劇上演年における訪問者の増加率は、大規模施設のそれを上回っている。また、平年であれば平均宿泊数が７～９泊程度であるが、上演年には、3.5 泊に低下する。

これらのことから推測できることは、オーバーアマーガウ訪問のリピーターは、受難劇の上演される年を回避しているであろうということだ。

［表７］オーバーアマーガウにおけるベッド数９床以上の宿泊施設における年間宿泊状況

年度	訪問者数		宿泊件数		平均宿泊数	
	国内起点	国外起点	国内起点	国外起点	国内起点	国外起点
2007	30,596	26,319	131,906	83,015	4.3	3.2
2008	36,597	21,824	158,680	74,513	4.3	3.4
2009	36,692	24,137	153,645	76,851	4.2	3.2
2010	32,949	44,272	99,635	99,824	3.0	2.3
2011	30,360	19,813	111,995	62,409	3.7	3.1
2012	40,776	26,632	182,149	79,540	4.5	3.0

（典拠）Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik kommunal 2012: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für die Gemeinde Oberammergau 09 180 125*, p. 15

［表８］オーバーアマーガウにおけるベッド数９床未満の宿泊施設における年間宿泊状況

年度	訪問者数	宿泊件数	平均宿泊数
2007	8,735	79,005	9.1
2008	7,821	58,508	7.5
2009	6,835	50,016	7.3
2010	13,443	47,192	3.5
2011	4,140	29,538	7.1
2012	7,371	51,126	6.9

（典拠）Bayerisches Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung, *Statistik kommunal 2012: Eine Auswahl wichtiger statistischer Daten für die Gemeinde Oberammergau 09 180 125*, p. 15

５．小括

自然保護区域に囲まれたオーバーアマーガウを訪れる者は、フレスコ壁画に飾られた「むら」

の景観に目を奪われる。この「むら」を有名にしているのは、村人によって10年ごとに上演されるキリスト受難劇である。近隣にあるエッタール修道院関係者の協力によって、この受難劇の伝統は形成されてきた。

受難劇の上演年においては、国内からの観光客が減少するとともに、国外からの訪問者が激増する傾向がみられる。同時に滞在期間が短縮する。平年にオーバーアマーガウに比較的長期間、滞在しているリピーターが、上演年には訪問を回避しているのではあるまいか。

（注）

[i] Gemeinde Oberammergau, die Fakten, in interrete sub: http://www.gemeinde-oberammergau.de/oberammergau.php, 31.03.2014

[ii] Gemeinde Oberammergau, Geschichte, in interrete sub: http://www.gemeinde-oberammergau.de/die_geschichte.php, 31.03.2014

[iii] Altenbockum, A. von, *Oberammergau: Kunst, Tradition & Passion*, München, 2010, p.12

[iv] Gemeinde Oberammergau, Unsere Heimat, in interrete sub: http://www.gemeinde-oberammergau.de/gemeinde.php, 31.03.2014

[v] 例えば、以下のバス路線によって、これらの地域とオーバーアマーガウが結ばれている。ドイツ鉄道オーバーバイエルンバス路線番号9606は、Garmisch-Partenkirchen - Oberammergau - Wieskirche/Füssen（-Schongau）間で、路線番号9622は Oberammergau - Ettal - Linderhof（Schloß）間で運行されている。（DB Oberbayernbus, Liniennetzplan Landkreis Garmisch-Partenkirchen, in interrete sub: https://www.rvo-bus.de/file/2343336/data/liniennetzplan_garmischpartenkirchen.pdf, 26.06.2014 参照）

[vi] Gemeinde Oberammergau, Unsere Heimat, in interrete sub: http://www.gemeinde-oberammergau.de/gemeinde.php, 31.03.2014

[vii] Rattelmüller, P. E., *Lüftlmalerei in Oberbayern,* München, 1981,

[viii] Lüftlemalerei の Lüftle とは、18世紀以降バイエルンで使われている用語で、Luft の縮小名詞 Lüftchen（そよ風）を意味する。（Wörterbuch der deutschen Umgangssprache, Lüftl-Maler, in interrete sub: http://umgangssprache_de.deacademic.com/15754/L%C3%BCftl-Maler, 31.07.2014）
Lüftlemalerei の英訳は、fresco painting、wall paintings、world famous wall paintings called Lüftlmalerei、artistically painted facades、"Lüftl" paintings、colourful wall paintings、facade murals、richly painted houses、artistic airy drawings、houses adorned with beautiful Lüftl、painted facadesなどが使われ、定訳はない。（Linguee, Redaktionelles Wörterbuch, in interrete sub: http://www.linguee.de/deutsch-englisch/uebersetzung/l%C3%BCftlmalerei.html, 31.07.2014）これを踏まえ、また我が国でしばしばフレスコ画と呼びならわされている点をも鑑み、ここでは「フレスコ壁画」を Lüftlemalerei の訳語として使用する。

[ix] Rattelmüller, P. E., *Lüftlmalerei in Oberbayern*, München, 1981, p. 7-　スグラフィートについては、Baldry, A.L., *Modern Mural Decoration*, London, 1902 参照。

[x] Härtl, R., *Heinrich Bickel: Der Freskenmaler von Werdenfels*, Garmisch-Partenkirchen, 1990 （Meider, H., *Lüftmalerei an Isar, Partnach, Loisach und Ammer*, Hamburg, 2003, p.4 より引用） ルドルフ・ヘルトゥルの経歴は Kunstlerverbund Garmisch-Partenkirchen e.V., Rudolf Härtl ,Malerei, in interreete sub: http://www.kuenstlerbund-gap.de/haertl/index.html , 31.07.2014 参照

[xi] Rattelmüller, P. E., *Lüftlmalerei in Oberbayern*, München, 1981, p. 7-

[xii] Meider, H., *Lüftmalerei an Isar, Partnach, Loisach und Ammer*, Hamburg, 2003, p.4

[xiii] Short, J.H., *Oberammergau*, New York, 1910, p. v

[xiv] Short, J.H., *Oberammergau*, New York, 1910, p.18

[xv] Short, J.H., *Oberammergau*, New York, 1910, p.20

[xvi] Short, J.H., *Oberammergau*, New York, 1910, p.27

[xvii] 井手雄太郎『オーバーアマガウ　受難劇感賞の旅』サンパウロ、2001 年，107 ～ 175 ページ

[xviii] 古庄　信「オーバーアマガウ・キリスト受難劇の上演とその意味について　～劇中の女性たちの役割を中心として～」『学習院女子大学紀要』第 3 号、2001 年

[xix] Shapiro, J., *Oberammergau: The troubling story of the world's most famous passion play*, New York, 2000, ix

[xx] Passion Spiele Oberammergau, Chronik 17. Jh., in interrete sub: http://www.passionsspiele2010.de/index.php?id=105, 31.03.2014

[xxi] Passionspiele Erl 2019, Geschichte, in interrete sub: http://www.passionsspiele.at/php/geschichte_de_4.html, 23.06.2014

[xxii] Gemeide Erl, *Unser Erl*, 2001, p. 5

[xxiii] Passionspiele Erl 2019, Chronologie, in interrete sub: http://www.passionsspiele.at/php/chronologie_de_30.html, 23.06.2014

[xxiv] Passion Spiele Oberammergau, Chronik 17. Jh., in interrete sub: http://www.passionsspiele2010.de/index.php?id=105, 31.07.2014

[xxv] Passion Spiele Oberammergau, Chronik 18. Jh., in interrete sub: http://www.passionsspiele2010.de/index.php?id=106, 31.07.2014

[xxvi] マクシミリアン・モンジェラについては谷口健治『バイエルン王国の誕生』山川出版社、2003 年、18 ～ 28 ページ参照。

[xxvii] Passion Spiele Oberammergau, Chronik 19. Jh., in interrete sub: http://www.passionsspiele2010.de/index.php?id=107, 31.07.2014

[xxviii] Passion Spiele Oberammergau, Chronik 20. Jh., in interrete sub: http://www.passionsspiele2010.de/

index.php?id=108, 31.07.2014

[xxix] Passion Spiele Oberammergau, Chronik 21. Jh., in interrete sub: http://www.passionsspiele2010.de/index.php?id=109, 31.07.2014

[xxx] Heim, M., Die Gründung des Klosters Ettal, in: Schmid, A. et Weigand, K., *Bayern Nach Jahr und Tag,* München, 2007, p.143

[xxxi] Viktring, J.v., Liber certarum historiarum, liber quintus, in: Schneider, F., hrsg., Liber certarum historiarum, Bd. 2, Hannover, 1910

[xxxii] Benediktinerabtei Ettal, Geschichte -Gründung , in interrete sub: http://abtei.kloster-ettal.de/kloster/geschichte/gruendung/gruendung-weiterlesen/, 08.09.2014

[xxxiii] Ritterakademie は「貴族学校」と訳されることもあるが、(西村稔『文士と官僚――ドイツ教養官僚の淵源』木鐸社 1998 年）当学校では、広範な社会層を対象としていた。

[xxxiv] Benediktinerabtei Ettal, Geschichte -Von der Blüte zur Säkularisation, in interrete sub: http://abtei.kloster-ettal.de/kloster/geschichte/bluete-saekularisation/bluete-weiterlesen/, 08.09.2014

[xxxv] Benediktinerabtei Ettal, Schule und Internat, in interrete sub: http://abtei.kloster-ettal.de/schule-internat/, 08.09.2014、Benediktinerabtei Ettal, Schule und Internat - Gymnasium, in interrete sub: http://abtei.kloster-ettal.de/schule-internat/gymnasium/, 08.09.2014、et Benediktinerabtei Ettal, Schule und Internat –Internat, in interrete sub: http://abtei.kloster-ettal.de/schule-internat/internat/, 08.09.2014

[xxxvi] Ettaler Kloseter Betriebe, Home, on onterrete sub: http://www.ettaler.info/index.php, 08.09.2014　それらの配置地図は、

http://www.ettaler.kloster-ettal.de/images/so/Uebersichtsplan-Kloster-Ettal.pdf, 08.09.2014 を参照。

[xxxvii] Ettaler Kloseter Betriebe, Impressum, in interrete sub: http://www.ettaler.info/impressum, 08.09.2014

[xxxviii] 同様の傾向は、同じガルミッシュ＝パルテンキルヘン郡に属すマルクト・ムールナウにも見られた。(拙稿「マルクト・ムールナウと観光」跡見学園女子大学『マネジメント学部紀要』第 18 号、2014 年）